

## 教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名(山崎晶子)

### 1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など(平成12-18年度に限る)

例:(欧文の場合は、原文 **alphabet** で記入してください)

#全著者あるいは作者名(自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

&著書、学術論文又は作品の名称

\$発行所(総頁数)、発表雑誌又は発表学会(号・巻・pp・年月)、展覧会(場所・期間)などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム(招待講演)・一般講演など(地方支部会・全国大会・国際会議)の別

註:学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

太田祥一・行岡哲男・山崎敬一・山崎晶子・葛岡英明・松田博青・島崎修次「Head mounted display(HMD)によるShared-View systemを用いた遠隔指示・支援システムの検討」日本救急医学会『日本救急医学会雑誌』, Vol.11, No.1, pp.1-6,2000

Hideaki Kuzuoka, Shinya Oyama, eiichi Yamazaki Akiko Yamazaki, Mamoru Mitsushi, Kenji Suzuki' Gestureman: A Mobile Robot that Embodies a Remote Instructor's Adctions CM(American Computer Machinery) Video Program of CSCW2000,2000

山下淳・葛岡英明・Paul Luff・山崎晶子「AGARAG」ヒューマン・インターフェース・シンポジウム(HIS)2000

小山慎哉・葛岡英明・山崎敬一・山崎晶子「ロボットを介した遠隔支援システムの開発」第19回日本ロボット学会学術講演会論文集、pp.17-18,2001

Hideaki Kuzuoka, Keiichi Yamazaki, Jun Ymashita, Shinya Oyama, Akiko Yamazaki, Hiroshi Kato, Hideyuki Suzuki, Hiroyuki Miki' Embodied Spaces' HCI Intrenational International Proceedings of HCI Intrenational 2001

山崎敬一・三樹弘之・山崎晶子・鈴木栄幸・加藤浩・葛岡英明「指示・身体・道具性」金子書房、加藤浩編『認知的道具のデザイン』, pp.95-117,2001

Kato Hiroshi, Yamazaki keiichi, Kuzuoka Hideaki, Hideyuki Suzuki, Hiroyuki Miki and Akiko Yamazaki. ' Designing a Video-mediated Collaboration System Based on a Body Metaphor' Lawrence Elrbaum Associates ,London, pp.409-423,2001

山崎敬一, 葛岡英明, 山崎晶子, 池谷のぞみ「リモートコラボレーション空間における時間と身体的空間の組織化」、日本組織学会、『組織科学』, Vol.36, No.3, pp.32-45,2004

菅靖子・山崎晶子・山崎敬一「インタラクティブな展示装置を中心とする鑑賞者の相互行為」、日本デザイン学会、『デザイン学研究』, Vol.49, No.5, 2004

Hideaki Kuzuoka, Jun'ichi Kosaka, Shin'ya Oyama, Haruo Noma, Keiichi Yamazaki, and Akiko Yamazaki' Robot as Communication Media —The Effect of Head and Body Movement on Co

一Present's Impression', proc. of 2003 IEEE International Symposium on Computer Intelligence in Robotics and Automation, July 16-20, pp. 50-54, 2003

山崎敬一、三樹弘之、葛岡英明、山崎晶子、加藤浩、鈴木栄幸「ビデオコミュニケーション空間における身体の再構築」、共立出版、日本認知科学会編 『「使いやすさ」の認知科学—人とモノとの相互作用を考える』、pp. 75-98, 2003

山崎敬一・山崎晶子「「見ること」の身体的社会的組織化」、文真堂『市民社会と批判的公共性』、pp. 163-181, 2003

Hideaki Kuzuoka, Keiichi Yamazaki, Akiko Yamazaki, Jun'ichi Kosaka, Yasuko Suga, Christian Heath, 'Dual ecologies of robot as communication media: thoughts on coordinating orientations and projectability' CHI (Human Factors in Computing Systems)

In Proceedings of CHI' 04(Human Factors in Computing Systems), pp. 183-190, 2004

山崎晶子・菅靖子「博物館研究」、有斐閣『実践エスノメソドロジー入門』、pp. 181-191, 2004

山崎晶子・菅靖子・葛岡英明「調査の準備とビデオデータの分析法」、有斐閣『実践エスノメソドロジー入門』、pp. 181-191, 2004

Hideaki Kuzuoka, Jun'ichi Kosaka, Keiichi Yamazaki, Yasuko Suga, Akiko Yamazaki, Paul Luff, Christian Heath, 'Mediating dual ecologies', CSCW(Computer Supported Cooperative Work), In Proceedings of CSCW' 04(Computer Supported Cooperative Work), pp. 477-486, 2004

山崎晶子・山崎敬一「ジェンダーと会話分析—成員カテゴリー装置としてのジェンダー」日本語用論学会『語用論研究7号』、p. 123-124, 2005

山崎晶子・山崎敬一・杉中紗弥、「リモートインストラクション」、大修館書店『モバイルコミュニケーションの現在と未来—携帯電話とナビゲーションの会話分析』、pp. 187-204, 2006

Yoshinori Kuno, Hiroyuki Sekiguchi, Hisao Tsubota, Shota Moriyama, Keiichi Yamazaki, Akiko Yamazaki 'Museum Guide Robot with Communicative Head Motion', IEEE Ro-MAN, 2006

山崎晶子・山崎敬一・鶴田幸恵、「会話とジェンダー」有斐閣『社会理論とジェンダー』, 2006  
菅靖子、山崎晶子、「ジェンダーと表象」有斐閣『社会理論とジェンダー』, 2006

シンポジウム

『インタラクション環境の創造』(国際会議)(2004/9)、於埼玉大学、埼玉大学主催、筑波大学大学院システム情報工学科、公立ほこだて未来大学、情報処理学会グループウェアとネットワークサービス研究会、エスノメソドロジー会話分析研究会講演、大和日英基金助成  
『ビデオ分析の技法と実践的応用』(2004/9)、神戸大学 COE プログラム主催、課題名「市場化社会の法動態学」

『成員化カテゴリーとしてのジェンダー』(全国大会)(2004/12)、日本語用論学会大会  
連続国際ワークショップ

「ミュージアムとエスノメソドロジー」、於埼玉大学(2005/10)、埼玉大学主催

講演

「会話とジェンダー」(2006/10)埼玉県男女共同参加推進センター主催

2) 学会活動(役員・会員)、学会の組織運営、学会誌の編集委員など(平成12-18年度に限る)

例:

#学会などの名称

&編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間(年月)

註: 専門分野によっては適宜変更(例えば、学会を展覧会などと記す)・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

3) 研究費獲得状況(未来大学外からの財源)(科学研究費、財団助成金、委任経理金など)  
(平成12-18年度に限る)

例:

#平成12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$ 研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究(相手機関の協同研究者数など)

¥研究経費(例:平成12年度;800千円、平成13年度;500千円)

科学研究費補助金基盤研究B『遠隔的協同作業システムに関する社会学的・工学的研究』12年度分担者、13~14年度代表者、研究経費平成12年度7900千円、平成13年度、3000千円、平成14年度2900千円

大和日英基金(平成13年度~14年度) 分担者 キングスカレッジロンドン大学マネジメントセンター、埼玉大学(2人)、筑波大学1人、研究経費200万円

科学研究費補助金基盤研究C『博物館における相互行為的鑑賞行為のエスノメソドロジー的研

究』

平成17年度代表者、研究経費：平成17年度、18年度、1,900千円

総務省戦略的情報通信研究開発推進制度『視覚情報に基づく人間とロボットの対面およびネットワークコミュニケーション』平成17、18年公立はこだて未来大学代表者、研究経費：平成1

7年度,1,000千円

日本学術振興会、人文・社会科学振興プロジェクト16年度～17年度『ミュージアムの活用と未来』、分担者、代表者 筑波大学五十殿利治教授、研究課題参加者数22人、研究経費平成17年度

- 4) その他（特許、内地研究（学内共同研究は除外）および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は平成12-17年度に限定しない。）

## 2 教育業績

- 1) 教育負担の実態（複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ）本項目は時間割に含まれた教科（補講・補習など教室で行なったものは含む）を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。（平成12-18年度に限る）

例：

#科目名（講義・演習・実習・補講の別）、単位数・必修/選択の別、担当教員数（単独の場合は不要）

&実施期間（平成12年度前期、あるいは平成13年10-11月）、実施コマ数（休講しても補講で補えば算定する）、補講をしなかった休講回数（例：実施13コマ、休講2コマ）

\$実働時間数（全て、実時間合計(推定)値でお願いします）、演習などは一コマ1.5時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ2.2時間などと算定してください（例：実働22.5時間）

%受講登録学生数（例：45名）、平均的出席者数（例：38名；初めは40名、終りは25名など）、単位認定（合格）者数

註：本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です。記述がない場合は0と判断します

ヒューマンインタフェース（講義）、2単位、必修、担当教員数5（平成12～18年度前期）、実施コマ数（14回）、実働時間数14時間、講義登録学生数（200人以上）

ヒューマンインタフェース（演習）、2単位、必修、担当教員数5（平成12～18年度前期）実施コマ数（14回）、実働時間数22.5時間、登録学生数（200人以上）

文化と社会（講義）、2単位、選択、実施期間（平成12～18年度後期）、実施コマ（14回）、休講1回、実働時間数13時間、登録学生数（100人前後）平成18年度、実施コマ数13回、休講1回、実働時間数28時間、登録学生数146人

メディア論（講義）、2単位、選択、実施期間（平成13～18年度後期）、（実施コマ13回、休講1回）、実働時間数13時間、登録学生数（100人前後）平成18年度（実施コマ数14回、休講2回、補講1回）、実働時間数（24時間）、登録学生数92人

プロジェクト学習（演習）、4単位、必修（平成14年度）、担当教員2人、実施コマ数（30回）、実働時間数40時間、登録学生数（15人）（平成18年度）、担当教員3人、実施コマ数（30回）、実働時間数40時間、登録学生数（5人）

プロジェクト学習（演習）、4単位、必修（平成14年度）、担当教員2人、実施コマ数（30回）、実働時間数40時間、登録学生数（15人）（平成17年度）、担当教員4人、実施コマ数（30回）、実働時間数40時間、登録学生数（20人）

卒業研究（演習）、4単位、必修（平成14から18年度）、実施コマ数（35回）、実働時間数90時間、登録学生数（平成14年6人、平成15年度4人、平成16年度7人、17年度6人、18年度5人）

メディアの科学（平成16年度より）、選択、2単位、担当教員1人、（実施コマ数14回、休講1回）、実働時間数（24時間）、登録学生数（127人）

2) 成績評価方法（その方法を具体的に記載・学生（社会）が納得するような具体的説明。）  
また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

出席にかんしては、絶対条件として欠席3回まで以外は認めない。3回を超過した場合は、レポート提出の要件を満たさない。中間レポートと最終レポートで成績をとるが、提出期限に遅れるあるいは最終レポートの内容が不備な場合は、不可とする。

ヒューマンインターフェースにかんしては、出席とテスト、全教員で最後に出席数とテストの点数を集計してとりまとめる。

3) 講義方法など改善への努力（FD関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい）。

学会において授業法などが討議される時には出席し、他の教員の教育法を伺う。  
また、ヒューマンインタフェースに関しては、出席とテストの点数から全員で検討している。  
演習は、各回の成績を集計し、最終的に担当教員全員で検討する。

4) その他（上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている（コース別）講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。）

社会学の基礎的なワークスペースやメディア論に関する概念を習得するだけでなく、最先端の研究を紹介し、学生がデザインやシステムなどへの応用・適用可能性を考察できることとしたい。

### 3 大学の管理運営

各種委員会（委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績（具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など）、その他。（平成 12-18 年度に限る）

人権委員会（平成 12～15 年度）

プロジェクト学習ワーキンググループ（平成 15 年度）

人権・実権倫理委員会（平成 15・16・17 年度）

クラス担任（平成 12～18 年度）

学生委員会（副委員長）（平成 18 年度）

### 4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など。（平成 12-18 年度に限る）

